

## ●読書感想文コンクール 小学校中学年の部●

### 最優秀賞

上田 結心（うえだ ゆしん ）八嘉小学校 4年

題名：「ランドセルは海をこえて」を読んで

図書：ランドセルは海を越えて

ぼくは、この本を読んで、日本では使わなくなったランドセルをアフガニスタンの子供たちにおくる活動があることを知って、とてもうれしい気持ちになりました。

日本では当たり前に使われているランドセルですが、アフガニスタンの子供たちはランドセルを知らないし、使ったこともありません。なぜなら、アフガニスタンでは、戦争が続いていて、子どもたちが学校へ通うためのカバンや文具をそろえることはむずかしいからです。だから、日本からおくられてきたランドセルは学校へ通う小学生のたから物だそうです。

ぼくは、自分が小学校に入学する前、ランドセルが家にとどいた時、初めてランドセルをからって家族にみせた時のワクワクした気持ちや、「小学校ってどんなところだろう。」とそうぞうして、ちょっとドキドキした時の気持ちを思い出しました。ランドセルが日本からとどいた時、学校に行けるとわかった時、「アフガニスタンの子どもたちも、きっとワクワク、ドキドキという気持ちなのかなあ。」とぼくは思いました。

ぼくは今まで、ランドセルに教科書、ノート、筆箱を入れて、小学生がみんな学校に行って勉強するのは「当たり前」と思っていました。だけど、この本を読んで、アフガニスタンの子どもたちにとっては、全く当たり前ではないことを知りました。アフガニスタンでは、せいびされた学校はほとんどなく、校しゃもありません。教科書もノートもなく、小さな黒板だけが学校のしるしだそうです。それでも、子どもたちは、日本からおくられたランドセルで学校に行けること、ランドセルをつくえのかわりにして、勉強ができることがとてもうれしそうです。字を読んだり書いたり、計算をしたり、新しいことをたくさん学ぼうと一生けんめいです。学校に行かせられている、勉強をさせられているのではなく、自分から「学びたい」と思って勉強している、だからみんな生き生きとしているのだと思いました。

そして、アフガニスタンの子どもたちは学校に行けることを感しゃしていると思います。なぜなら今まで周りの人に助けられながら、今の自分のいのちがあるということを知っているからです。だから、子どもたちは、学校に行く自分のことだけを考えているのではなく、自分が勉強することで、しょうらい、まわりの人を助けることができる、人の役にたつこ

とができるということをちゃんと知っています。ぼくも、学校に行けることや周りの人たちに感しゃの気持ちをわすれなくて生きていかなければいけないと思いました。

ぼくは、この本を読んで、日本からおくるランドセルの中には、アフガニスタンの子どもたちへの夢や思いがたくさんつまっているとおもうようになりました。